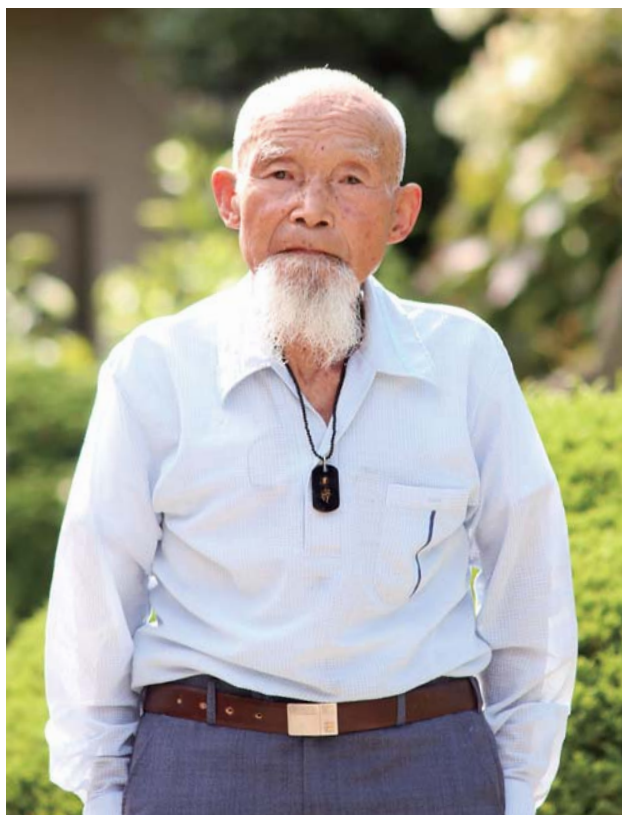


ときめき人

Tokimeki bito



40年以上のボランティア美化活動。感謝の気持ちで活動の原動力に

迫町・本田

鈴木 弘之さん

すずき・こうし
1921年生まれ 血液型/A型

Profile

迫町出身。佐沼尋常高等小学校（現佐沼小学校）卒業後、家業である酪農（乳牛）を始める。1942年に結婚し、1944年に第一子（女の子）が出生。男2人、女4人計6人の子宝に恵まれる。消防団員として30年以上活躍。不断の努力と永年の功績が認められ、1992年に瑞宝単光章を受章する。

「普段使う道をきれいにしたい」「お世話になった病院に恩返しをしたい」と思ったのが環境美化活動を始めたきっかけ。登米市民病院周辺を、40年以上にわたり季節の花々で彩りを添えてきました。

花は全て自分で育て、植栽しているプランターの数は約500。植栽だけではなく、朝4時に起床し、花に水をかけるなど肥培管理も徹底していました。「何かをするときは、信念を持って最後までやり通さない」と笑って話す鈴木さん。40年以上も続けてきたのは、病院や地域への感謝の気持ちと強い意志があったからです。

これまでに特に印象に残っていることを尋ねると「長沼で花を植えていたら、苗が足りなくなって自宅に戻ったんだ。苗を持って戻ったら、植えた100本の苗が全部カラスに抜かれていたよ。それもいい思い出だね」と語ってくれました。

昨年秋に体調を崩し、それ以降は花の植栽は中断。これからは、地域や病院職員などがこの活動を引き継ぐことになりました。6月3日、これまでの功績を称え、病院から感謝状が贈呈されました。鈴木さんは「愛情を持って、花を管理してほしい」と自身の意志をみんなに託しました。

編集後記

▼今号で取材したアスリートは、みんな夢や目標は必ずかなうと言ってくれた。そう言い切る姿は、性別、年齢など関係なくカッコよいと思った。今の自分に言い切るだけの強さはあるのだろうか。やっぱりまだまだだ。ぶれない強さを身に付けていきたい。（及川）

▼市中総体の取材に行ってきました。結果に関わらず精一杯戦っている選手を見て、すがすがしい気持ちになりました。また、会場では選手だけでなく、声を枯らしながら一生懸命応援する生徒達や一緒に涙する保護者の姿も。選手たちを信じ最後まで諦めない姿にとっても感動しました。（佐藤）

▼広報を編集するときには、皆さんに分かりやすいように、見やすいように心掛けています。しかし、自分では気付かず、言われて初めて気付くこともあります。広報に携わり「日本語って難しいな」と、あらためて思いました。皆さんに読みやすい広報を届けられるよう頑張ります。（田代）



モバイルとめ
(携帯電話版ホームページ)
<http://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)
<http://tomecity.mail-dpt.jp/>

